

研究主題：主体的、対話的で深い学びの実現を目指して（2年次）

～TANKYU～

谷地南部小学校
校内研究だより
2022. 5. 11
No.1 文責 荒木秀

深い学びって？①

怒涛の4月、そしてGWを終え、少しずつ普段の授業に取り組めるようになってきたのではないのでしょうか？先日、先生方の授業を少しの時間、拝見させていただきました。どのクラスも落ち着いた雰囲気の中で授業が進み、子ども達と先生方の様子を見て、今年度の研究が楽しみになってきました。

今年度の学校研究の方向性をもう一度確認させてください。

【研究主題】

主体的、対話的で深い学びの実現を目指して（2年次）

【目指す児童の姿】

「主体的な学び」…課題を自分事としてとらえ、見通しをもって意欲的に解決に向かおうとする。

「対話的な学び」…友だちや先生、教材、そして自分自身と対話を重ね、新たな見方や考え方に気付いたり、自分の考えに自信をもったりする。

上記のような学びをする児童を育てるために、私たち教師の手立て・工夫が必要になってきます。それを高めるために、授業研究を行っていきます。

ちなみに、昨年度「主体的な学び」「対話的な学び」を先生方に食べ物に例えていただきました。「主体的な学び」は「かっぱえびせん」（伊藤先生）、「対話的な学び」は「芋煮」（工藤先生）でしたね。先生方のセンスを感じます。

では、研究主題に入るもう一つのキーワード「深い学び」についてはどうでしょう。昨年度は、研究を通して、この「深い学び」が少しずつ明確になってくればと研究を進めてきました。昨年度からいらっしゃる先生方、「深い学び」少しは見えてきましたか？昨年度と同様、「深い学び」を食べ物に例えていただけませんか？思いついた方は、ぜひ荒木までお知らせください。「絶対解」なんてありません。みんなが「なるほど。」と思うような「納得解」を見つけていきましょう。